



CFI ニュースレター C2023-02 「平安の契約」

[今月の聖書]

「山は移り、丘は動いても、わがいつくしみは、あなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない」とあなたをあわれまれる主は言われる。(イザヤ 54: 10)

「耳を傾け、私に来て聞け、そうすればあなた方は生きることができる。私は、あなた方と、とこしえの契約を立ててダビデに約束した変わらないいたしかな恵みを与える」(イザヤ 55: 3)

「あなたの天幕の場所を広くし、あなたの住まいの幕を張り広げ、惜しむことなく、あなたの綱を長くし、あなたの杭を強固にせよ」(イザヤ 54:2)

祭りの終わりの大事な日に、イエスは立って叫んで言われた「誰でもかわく者は、私のところに来て飲むが良い。私を信じるものは聖書に書いてある通り、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」(ヨハネ 7: 37.3 37.38)

「あなた方は、主にお会いすることができるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。」

(イザヤ 55:6)

主なる神、イスラエルの聖者はこう言われた、「あなた方は立ち返って、落ち着いているならば救われ、穏やかにして信頼しているならば、力を得る」(イザヤ 30:15)

「静まって、私こそ神であることを知れ。私は諸々の国民のうちに崇められ、全地に崇められる」

(詩篇 46:10)

お元気でお過ごしでしょうか？大寒波がやって参りました。皆様のご健康と生活が守られますようにお祈りいたします。今月は「平安の契約」と題してイザヤ書 54 章 55 章から尊い御言葉をお伝えします。まさにイザヤ書は輝くような約束の言葉で満ちています。

信仰とは神の約束を信じることなのです。神の愛とは、私たちの命と未来を守り支えてくださるという契約なのです。そして契約は一方的ではなく、私たちの側から信頼し、期待し、愛して従う心なのです。この信頼がぶれると思いが始まり、その結果行動すれば罪を犯してしまうのです。

寒波襲来の2月、受験生は進路のことで悩みます。病の家族を持つものは、不安に心がさいなまれます。人間関係にもつれが生じてしまうと、どうして修復できるかと悩みます。高齢者は一生の仕上げをどうするか思い煩うものです。しかし「神が最善をなしてくださる」という確信がある人は、どんな不安な状態の中にも、心が揺らぐことがありません。暗くなる事はありません。恐れる事はありません。必ず神は最善をなしてくださるのだと確信して希望を持っているからです。

イザヤ書 1-39 章は、神の裁きのメッセージです。40-66 章は神の慰めのメッセージです。この慰めは「ご自分の民を自由にし、約束の地に連れ帰り、神の栄光を見させてくださる」という約束でした。この約束をあなた自身のものとして信じるときに、いかなる不安の時にも絶対的平安が与えられるのです。「静まって、私こそ神であることを知れ」(詩篇 46: 10)との御声を聞くことができる人は幸いです。あなたの心が常に平安で、そこから新しい道が開かれていきますようにお祈り致します。

(お知らせ)

*ウクライナ支援募金にご協力くださり、ご支援下さいましたことを心から感謝いたします。

引き続き募金を継続いたしますのでお祈りください。

*紀尾井ホールにおけるメサイア 2022 記録 DVD(4000 円)は 2 月中旬に、CD(2500 円)は 2 月初めに完成します。ぜひお求め下さり、その恵みを味わっていただければ幸いです。

「弱った手を強く」

新年の御言葉をさらに深く学んでみましょう。

イザヤという名前は「ヤハウエ(主)の救い」という意味です。紀元前 9～8 世紀かけて、チグリス川河畔のニネベから台頭したアッシリア帝国は、その覇権を広げ、パレスチナに攻撃をかけていました。北王国は既に陥落し、危機がユダに迫っていました。その時代に預言者イザヤが神の言葉を宣べ伝えたのです(BC 740-690 の 50 年間)。

イザヤ書は 66 章ありますが、34 章と 35 章は総論的な部分で真ん中に挿入されています。34 章は神の裁き、35 章は神の救いです。

「荒野とかわいた地とは楽しみ、砂漠は喜びで花咲き、サフランのように、盛んに花咲き、かつよろこび楽しみ、かつ歌う。」(35: 1.2)

荒れ果てた大地を花咲く園に変えてくださるというお約束です。もちろん、サフランはあやめ科の球根植物でクロッカスと言われる花の 1 種です。薬草としての癒しの力とその芳香がその特徴です。荒地の岩場の想像もできないところに咲く花です。不可能の中に可能の花が咲いたと言ったら良いでしょう。それはアッシリアの攻撃に対して勝利を得る事だけではなく、異邦人の世界、今日の立場で言うならば、未信者の世界に福音の花が咲くという意味です。試練や逆境の中にこそ私たちは希望の光を見いだすのです。それはイエス・キリストの与える希望です。

さて、その約束をいただいたイザヤは、信仰の手を上げて祈ることを勧めました。

「あなた方は弱った手を強くし、よろめく膝を健やかにせよ。強くあれ、恐れてはならない。」(35: 3.4)

預言者イザヤは、恐れることなく祈りの手を上げよと言ったのです。聖書の中で手を挙げて祈ることについて、4 つの箇所をご紹介します。

①個人的礼拝(時間と場所を決めて捧げる祈り)

「私があなたに向かって助けを求め、あなたの至聖所に向かって手を上げる時、私の願いの声を聞いてください」(詩篇 28: 20)これはダビデの言葉なのですが、「至聖所」とは、神殿の最も聖なる場所で、大祭司が、1 年に 1 度しか入ることができない神の世界です。

あなたの最も大切な時間と心を神に捧げましょう。

②絶対的の神依存(この世の力に依存しない)

「私は、生きながらえる間、あなたをほめ、手を上げて、御名を呼び奉る。…私の魂は、あなたにすがりつき、あなたの右の手は、私を支えられる」(詩篇 63: 4.8)神様にしがみついて祈る人は必ず勝利を得るでしょう。

③信仰の戦い(祈りの協力)

「モーセが手を上げているとイスラエルは勝ち、手を下げるとアマレクが勝った。しかし、モーセの手が重くなったので、アロンとホルが石をとって、モーセの足元に置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはあちらにいて、モーセの手を支えたので、彼の手は日没まで下がらなかった。ヨシュアは剣にかけてアマレクとその民を打ち破った。」(出エジプト記 17: 11-13)人生には、様々な敵が襲ってきます。祈りの手を上げ続けるために、自分だけで足りなければ、兄弟姉妹に頼んで祈っていただくのです。必ず勝利を見ることが出来ます。

④生活の中で(和解の祈り)

「男は、怒ったり、争ったりしないで、どんな場所でも、清い手を上げて祈ってほしい」(第一テモテ 2: 8)これは夫婦が余分な議論をしないで、祈りによって解決するよという助言です。特に男性の静かな態度が求められています。それは信仰を持った人は祈っている人だ。そこには和解と癒しがあるということです。

2023 年、信仰生活の勝利の秘訣はあなたの祈りの手にかかっています。

小田彰

